

第62回景況アンケート調査 結果報告書

(令和6年4月30日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757

TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 6年 1月～ 3月期》実績
《令和 6年 4月～ 6月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和6年3月14日(木)～令和6年4月16日(火)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業210社
(うち回答企業数162社：回答率77.1%)

4. 回答企業数

製造業	57社
繊維工業	17社
建設業・設備工事業	23社
卸売業・小売業	26社
飲食業・サービス業	39社
計	162社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

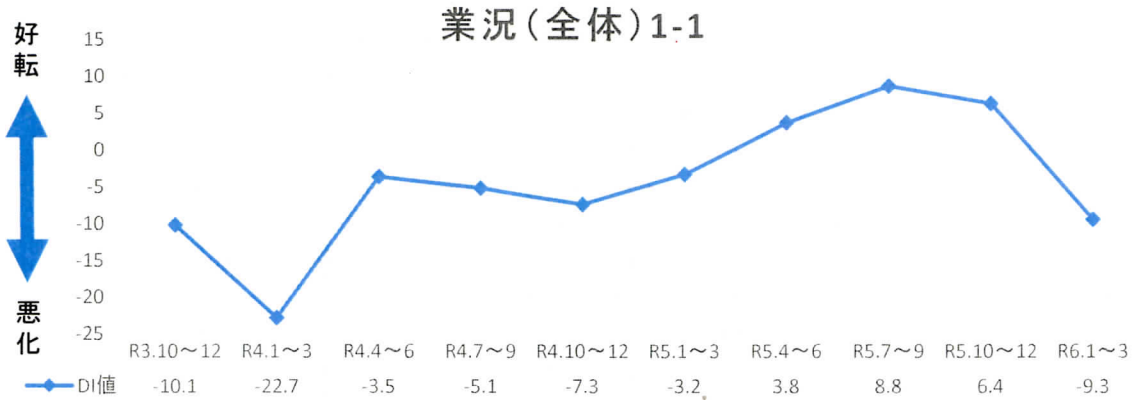
DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数
y：「普通」「適正」の回答企業数
z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

1. 当期（令和6年1月～3月）の景況について

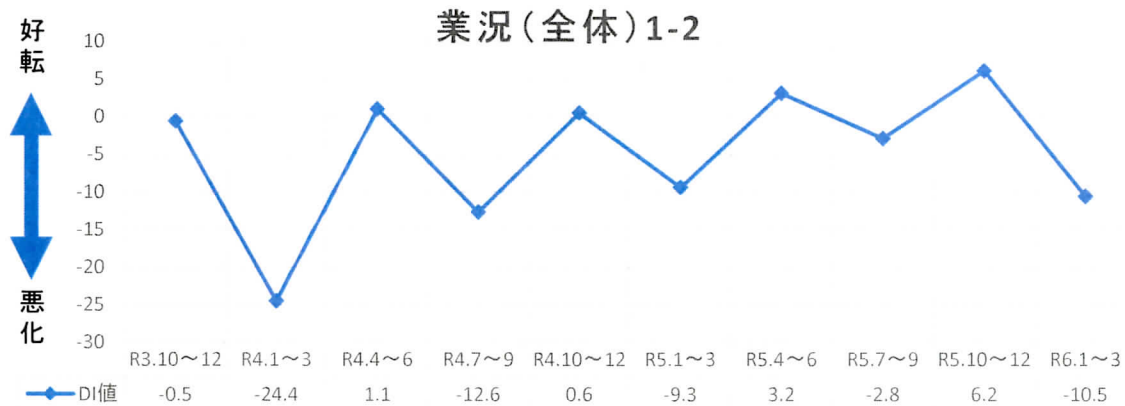
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



全体: 好転 22%、不変 46%、悪化 32%
 繊維工業: 好転 16%、不変 46%、悪化 38%
 卸・小売業: 好転 37%、不変 19%、悪化 44%

製造業: 好転 19%、不変 35%、悪化 46%
 建設業・設備工事業: 好転 0%、不変 92%、悪化 8%
 サービス業: 好転 30%、不変 54%、悪化 16%

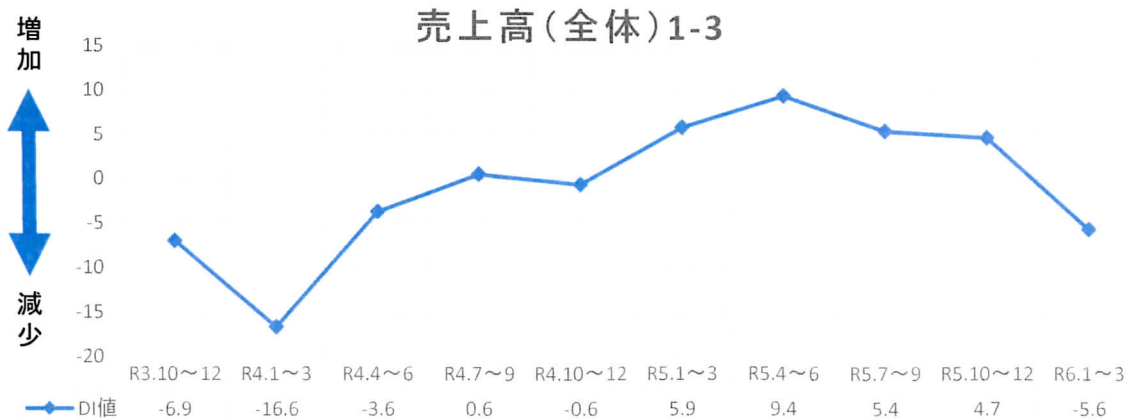
2. 当期の業況は前期（前3ヵ月間）に比べて



全体: 好転 23%、不変 42%、悪化 35%
 繊維工業: 好転 54%、不変 15%、悪化 31%
 卸・小売業: 好転 15%、不変 59%、悪化 26%

製造業: 好転 11%、不変 47%、悪化 42%
 建設業・設備工事業: 好転 8%、不変 71%、悪化 21%
 サービス業: 好転 46%、不変 14%、悪化 41%

3. 売上高は前年同期に比べて

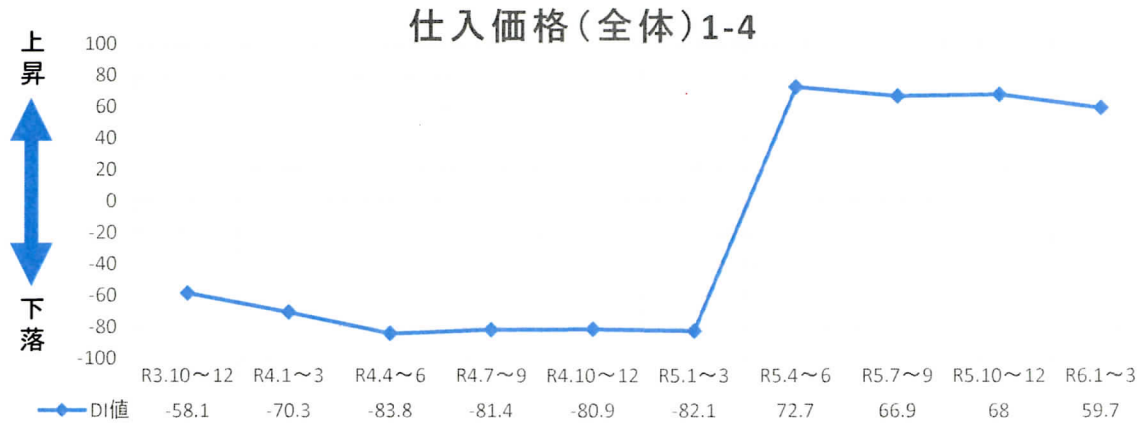


全体: 増加 27%、不変 38%、減少 35%
 繊維工業: 増加 46%、不変 15%、減少 38%
 卸・小売業: 増加 41%、不変 37%、減少 22%

製造業: 増加 25%、不変 30%、減少 46%
 建設業・設備工事業: 増加 21%、不変 67%、減少 13%
 サービス業: 増加 19%、不変 41%、減少 40%

※業種別にみた際に、好転・増加・上昇・過多・過剰率が最も高いもの、悪化・減少・下落・不足・低下率が最も高いものにアンダーラインを引いてある

4. 仕入価格(原材料)は前年同期に比べて



全体: 上昇68%、不変30%、下落2%

繊維工業: 上昇85%、不変15%、下落0%

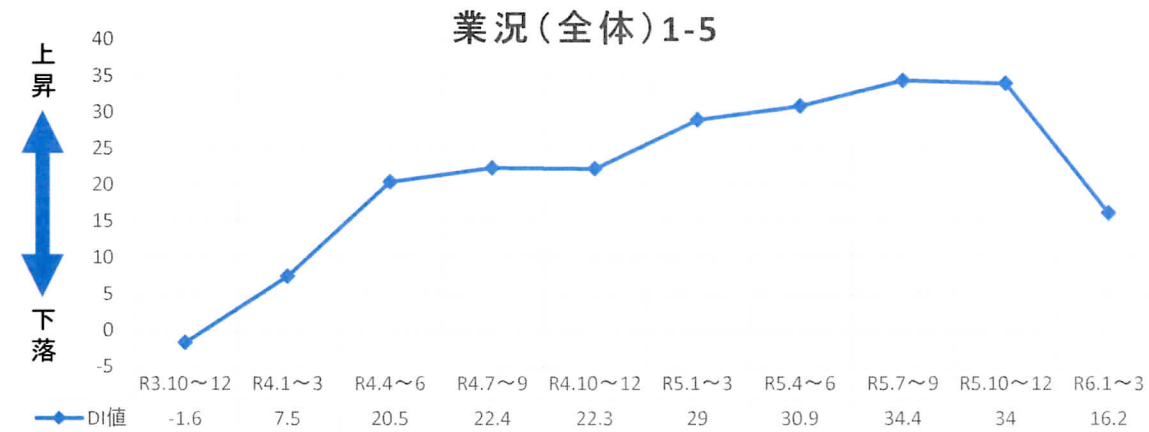
卸・小売業: 上昇59%、不変41%、下落0%

製造業: 上昇70%、不変30%、下落0%

建設業・設備工事業: 上昇75%、不変25%、下落0%

サービス業: 上昇59%、不変32%、下落8%

5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



全体: 上昇30%、不変61%、下落9%

繊維工業: 上昇30%、不変65%、下落5%

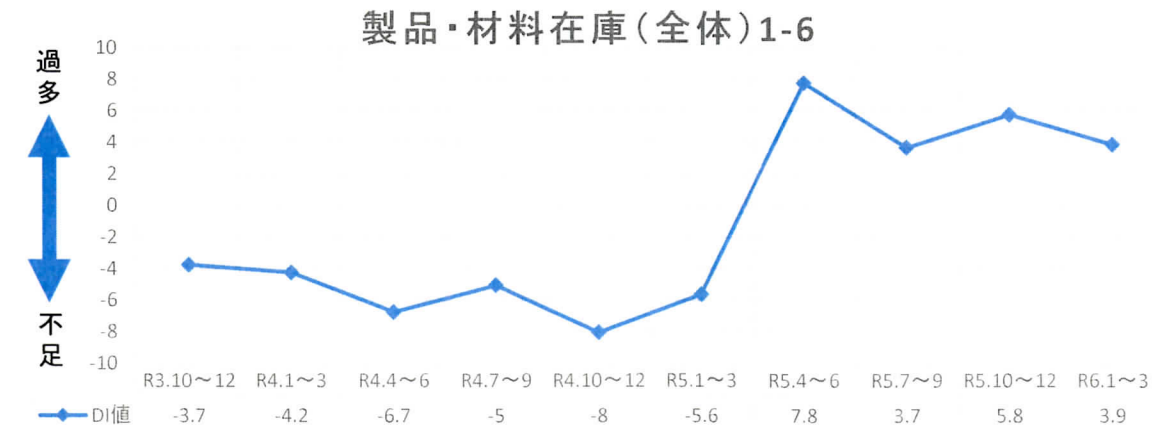
卸・小売業: 上昇33%、不変63%、下落4%

製造業: 上昇37%、不変47%、下落15%

建設業・設備工事業: 上昇21%、不変66%、下落13%

サービス業: 上昇27%、不変57%、下落16%

6. 当期の製品(材料)在庫は前年同期に比べて



全体: 過多11%、適正84%、不足5%

繊維工業: 過多15%、適正77%、不足8%

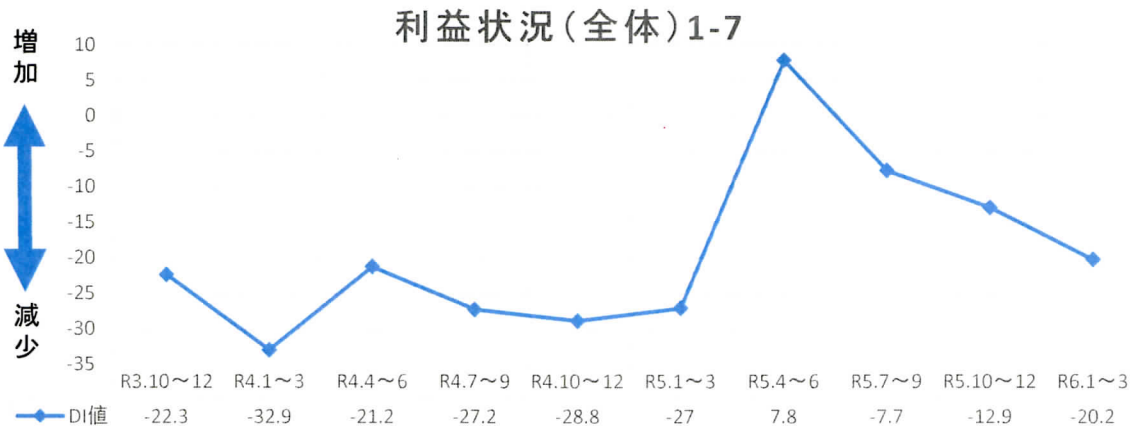
卸・小売業: 過多0%、適正93%、不足7%

製造業: 過多11%、適正84%、不足5%

建設業・設備工事業: 過多17%、適正83%、不足0%

サービス業: 過多16%、適正78%、不足6%

7. 利益状況は前年同期に比べて



全体: 増加20%、不変38%、減少42%

繊維工業: 増加38%、不変23%、減少38%

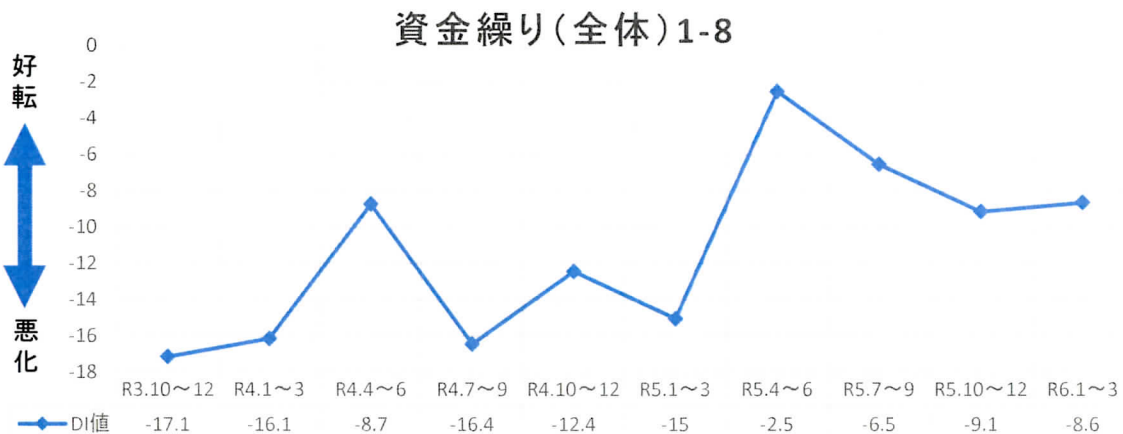
卸・小売業: 増加15%、不変48%、減少37%

製造業: 増加21%、不変37%、減少42%

建設業・設備工事業: 増加8%、不変54%、減少38%

サービス業: 増加22%、不変27%、減少51%

8. 資金繰りは前年同期に比べて



全体: 好転8%、不変73%、悪化19%

繊維工業: 好転8%、不変77%、悪化15%

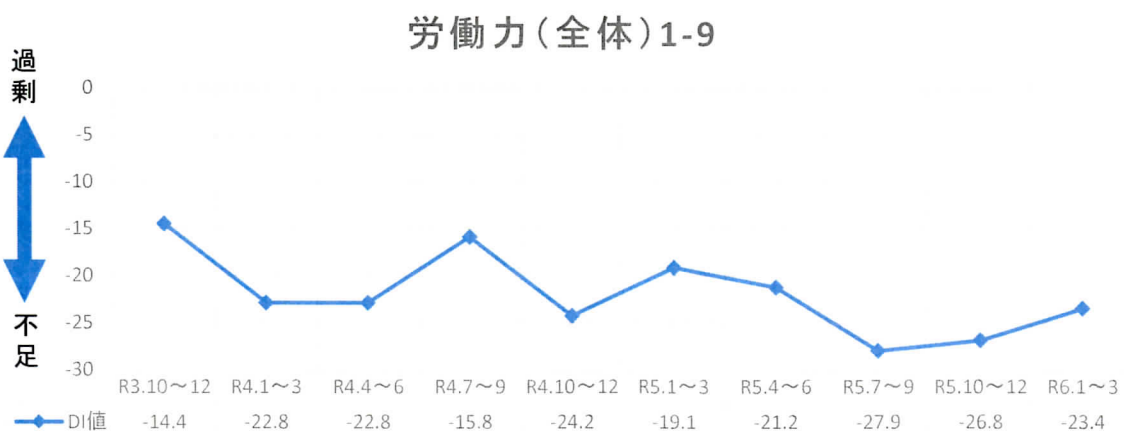
卸・小売業: 好転7%、不変78%、悪化15%

製造業: 好転12%、不変72%、悪化16%

建設業・設備工事業: 好転4%、不変71%、悪化25%

サービス業: 好転5%、不変71%、悪化24%

9. 労働力は前年同期に比べて



全体: 過剰8%、適正57%、不足35%

繊維工業: 過剰8%、適正62%、不足31%

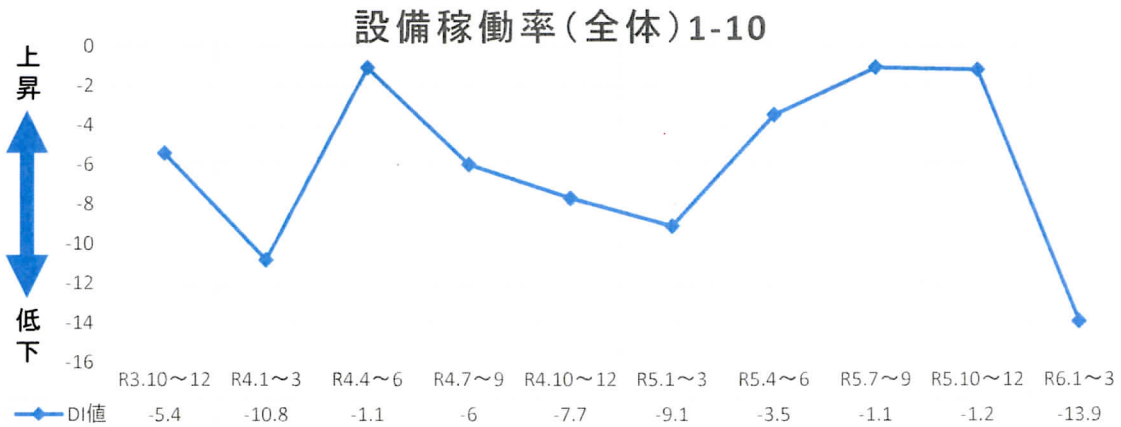
卸・小売業: 過剰0%、適正63%、不足37%

製造業: 過剰7%、適正58%、不足35%

建設業・設備工事業: 過剰13%、適正46%、不足42%

サービス業: 過剰11%、適正57%、不足32%

10. 設備稼働率は前年同期に比べて



全体: 上昇8%、不変67%、低下25%

製造業: 上昇12%、不変65%、低下23%

繊維工業: 上昇15%、不変70%、低下15%

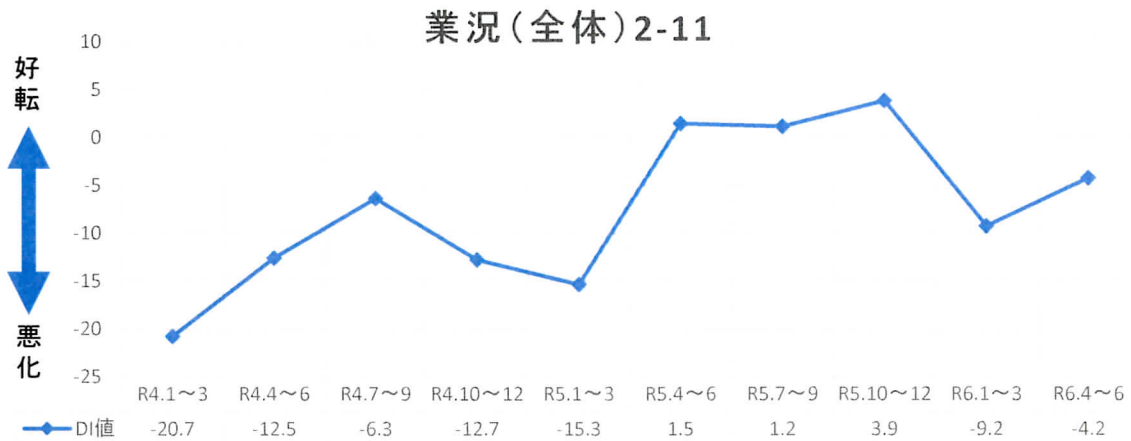
建設業・設備工事業: 上昇4%、不変79%、低下17%

卸・小売業: 上昇4%、不変70%、低下26%

サービス業: 上昇3%、不変62%、低下35%

II. 今後3ヵ月間(令和6年4月~7月)の推移の予想について

11. 業況は当期(1月~3月期)に比べて



全体: 好転18%、不変59%、悪化23%

製造業: 好転16%、不変54%、悪化30%

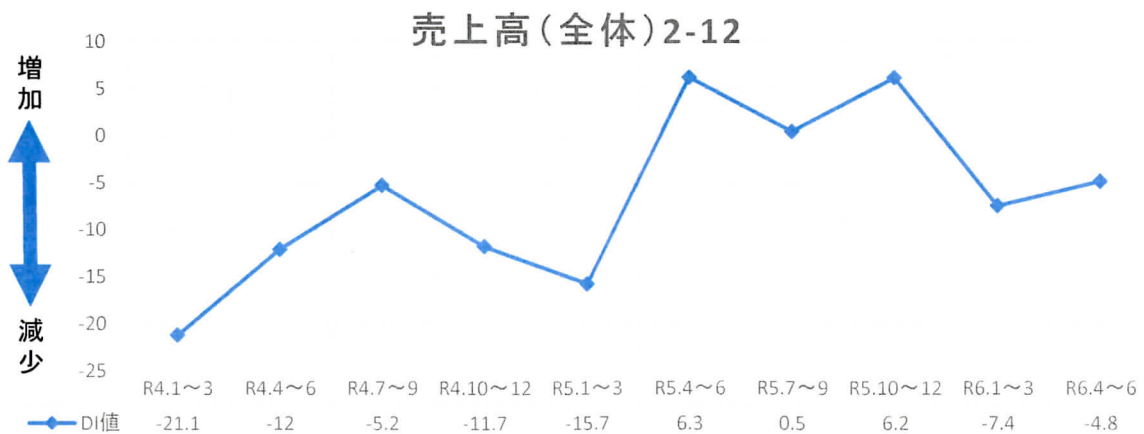
繊維工業: 好転54%、不変31%、悪化15%

建設業・設備工事業: 好転17%、不変67%、悪化17%

卸・小売業: 好転11%、不変67%、悪化22%

サービス業: 好転14%、不変68%、悪化19%

12. 売上高は当期(1月~3月期)に比べて



全体: 増加20%、不変54%、減少26%

製造業: 増加14%、不変51%、減少35%

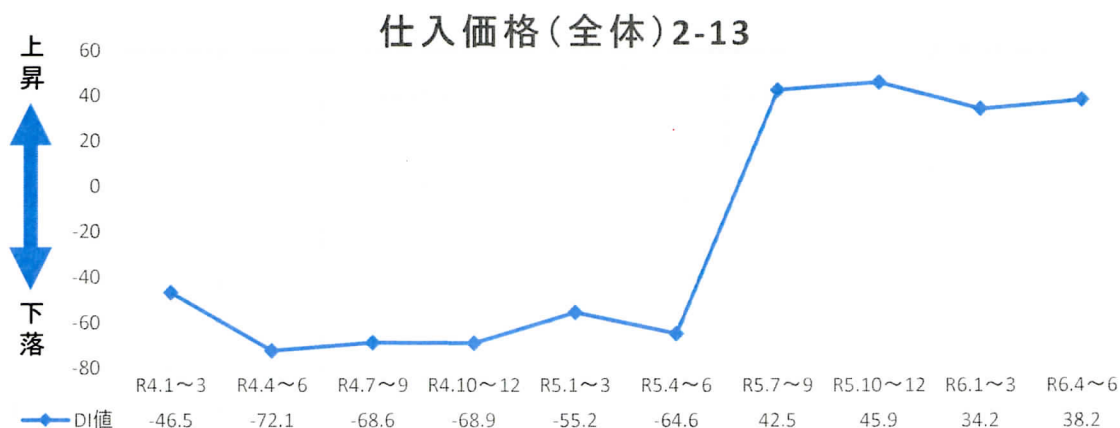
繊維工業: 増加62%、不変23%、減少15%

建設業・設備工事業: 増加25%、不変58%、減少17%

卸・小売業: 増加11%、不変59%、減少30%

サービス業: 増加19%、不変62%、減少19%

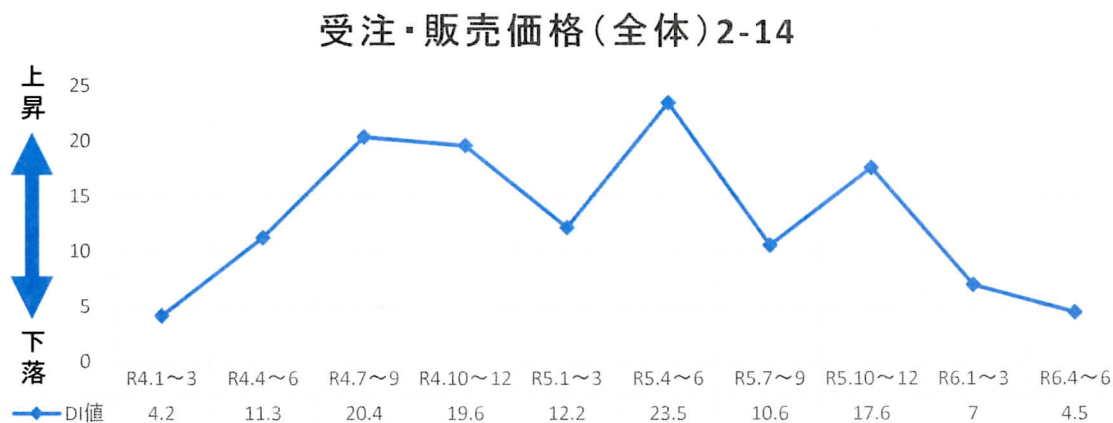
13. 仕入価格（原材料）は当期（1月～3月期）に比べて



全体: 上昇46%、不変53%、下落1%
 繊維工業: 上昇69%、不変31%、下落0%
 卸・小売業: 上昇41%、不変59%、下落0%

製造業: 上昇53%、不変43%、下落4%
 建設業・設備工事業: 上昇54%、不変46%、下落0%
 サービス業: 上昇27%、不変73%、下落0%

14. 受注・販売価格は当期（1月～3月期）に比べて



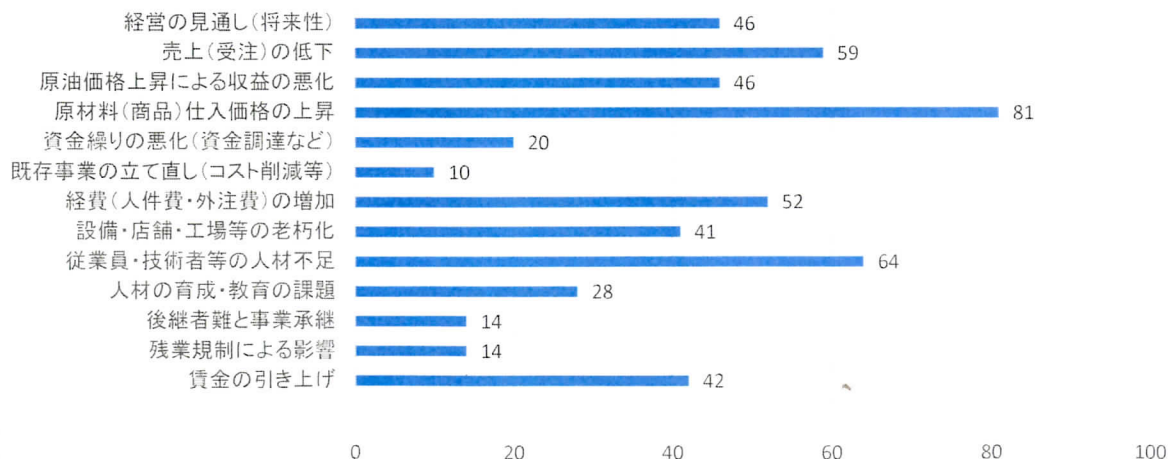
全体: 上昇14%、不変78%、下落8%
 繊維工業: 上昇38%、不変46%、下落15%
 卸・小売業: 上昇11%、不変78%、下落11%

製造業: 上昇16%、不変75%、下落9%
 建設業・設備工事業: 上昇17%、不変75%、下落8%
 サービス業: 上昇3%、不変95%、下落2%

III. 当期直面している経営上の問題点

15. 当期（1月～3月）直面している経営上の問題点について

III-15



16. 景況に関することや直面している問題等のコメント

◎サービス業

- ・先の見えない円安状況
- ・株価は絶好調と言うが地方経済は悪化なのでは…
- ・地域の高齢化により自身での御来店が難しくなっている
- ・近年になく景気が悪化していると感じる

◎建設業

- ・助成金はあるが、審査が厳しすぎて使いにくい

◎製造業

- ・能登半島地震から注文が減少していたが、受注が復活してきている

◎卸・小売業

- ・地方の生産業の大半が今だデフレだと思う

<概況>

【令和6年1月～3月期 実績】

●全体の業況におけるDI指数は-9.3ポイントで、前年同期(1年前)から比較し15.7ポイント減少。当期の業況も前期(前3ヶ月)と比較して16.7ポイント減少している。昨今の円安を始め、原油価格、仕入れ価格の上昇が大きな影響を与えている模様。

●繊維工業では、当期の売上が前期と比較し増加と回答が46%あるが、減少も38%となる等、偏りが見られた。

●労働力の不足はどの産業でも多くみられるが、特に建設業・設備工事業が顕著であった。

【令和6年4月～6月期 見通し】

●全体の業況におけるDI指数は-4.2ポイント(前3ヵ月比-5ポイント)とマイナス幅が減少する見込み。景気が悪いながらも、少しでも景気が上昇してほしいとの声。国内需要が力強さを欠き、また深刻な人手不足や価格転嫁への対応等、企業経営の足かせは多い中、インバウンドや海外需要に期待する姿勢が伺え、業況、売上高とも若干ポイントを戻す結果となった。

【直面している経営の問題点】

●原材料(商品)仕入価格の上昇、従業員・技術者等の人材不足のほか、国が呼び掛ける賃金の引き上げに苦慮している様子が伺えた。